



高齢者用肺炎球菌予防接種を受ける際の注意点

1 一般的注意

予防接種は健康な方が元気な時に接種を受け、その病原体の感染を予防するものですから、体調のよい時に受けるのが原則です。

何か気にかかることがあれば、あらかじめ、かかりつけの医師や健康推進課にご相談ください。

以下の注意を守って、安全に予防接種を受けてください。

- (1) 受ける予定の予防接種について、市からの説明書（お知らせ）をよく読んで、必要性や副反応についてよく理解しましょう。わからないことは事前に医師または健康推進課に問い合わせましょう。
- (2) 受ける前日は入浴（又はシャワー）をし、体を清潔にしましょう。当日は、お体の状態が普段と変わったところのないことを確認してください。
- (3) 接種に行く予定をしていますが、体調が悪く思ったら、予定を変更しましょう。
- (4) 清潔な衣服を身につけましょう。
- (5) 予診票は接種する医師への大切な情報です。きちんと記入しましょう。

2 予防接種を受けることができない方

(1) 明らかに発熱のある方

接種する場所で測定した体温が37.5℃以上の場合を指します。

(2) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方

重い急性疾患にかかっている場合は予防接種を受けることができない場合があります。かかりつけ医とよくご相談ください。

(3) ワクチンに含まれる成分によってアナフィラキシーをおこしたことがある方

「アナフィラキシー」とは、通常接種後約30分以内におこるひどいアレルギー反応のことです。顔が急に腫れる、全身にひどいじんましんが出るほか、はきけ、嘔吐（おうと）、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続きショック状態になるような全身反応のことです。

(4) その他、医師が不適切な状態と判断した場合

上の(1)～(3)にあてはまらなくても医師が接種は不適當であると判断したときは受けられません。

裏面もご覧ください

3 予防接種を受ける際に、お医者さんとよく相談しなくてはならない方

次に該当すると思われる方は、かかりつけの医師と相談して、接種時期などを決めましょう。

- (1) 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気などで治療を受けている方
- (2) お体の健康状態について医師や保健師の指導を継続している方
- (3) カゼなどのひきはじめと思われる方
このようなときは体の状態がはっきりするまで、なるべくやめておきましょう。
- (4) 以前に予防接種を受けたとき、2日以内に発熱、発しん、じんましんなどアレルギーを思わす異常が見られた方
- (5) 薬の投与を受けて皮膚に発しんが出たり、体に異常をきたしたことがある方
- (6) 過去にけいれんをおこしたことがある方
- (7) 過去に免疫不全の診断がされている方および近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- (8) 最近1か月以内に病気にかかった方
- (9) 1か月以内に家族や友人の間で、麻しん（はしか）、風しん、おたふくかぜ、水痘（みずぼうそう）などの病気が流行し、その病気にかかったことのない方
(症状が現れていなくても、その病気の潜伏期間に入っている場合があります。)

4 他のワクチンとの間隔

最近受けた予防接種が生ワクチンであった場合には接種した日の翌日から起算して27日以上、また不活化ワクチンの場合には接種した日の翌日から起算して6日以上の間隔をあけてください（※R2年10月1日以降は、異なるワクチンの接種間隔が変更になります）。

（例）月曜日に不活化ワクチン（インフルエンザ等）を接種した場合

月	火	水	木	金	土	日	月
接種日	①	②	③	④	⑤	⑥	次の接種が可能

5 接種後の注意

- (1) 接種当日は激しい運動を避けてください。（接種当日の入浴は差し支えありません。ただし、注射したところをこすらないでください。）
- (2) 接種後に発熱したり、接種した部位が腫れたり、赤くなったりすることがありますが、一般にその症状は軽く、通常、数日中に消失します。
- (3) 接種後は自らの健康管理に注意し、もし、高熱や体調の変化、その他局所の異常反応に気付いた場合は、ただちに医師の診察を受けてください。